

## 秋田県よろず支援拠点&北海道よろず支援拠点 コラボセミナー&無料個別相談会 求人票の有効活用で 採用率アップセミナー

**開催内容** 中小企業・小規模事業者の「人材確保」に精通した「人手不足対応広域アドバイザー」による講演



### 拡大する人手不足の課題解決へ

中小企業・小規模事業者において人手不足は深刻な問題であり、全国47都道府県に設置されているよろず支援拠点においても、昨年から人手不足に関する様々な相談に対応するべく「人手不足対応アドバイザー」を配置している。その中でも、特に専門分野ごとの人手不足対応に精通した相談員を「人手不足対応広域アドバイザー」として選定し、地域を越えた活動を行っている。

秋田県よろず支援拠点では2018年12月21日、秋田ビューホテルを会場に初めて北海道よろず支援拠点と連携し、人手不足対応広域アドバイザーの島畑知可子氏による『求人票の有効活用で採用率アップセミナー』と題して講演を行った。



### 求人票は“企業の履歴書”

証券会社や年金機構事務所勤務を経て、社会保険労務士事務所を開業した島畑氏は、人手不足を解消するためには、企業側が、「ヒト(採用・定着・教育)」と「シゴト(ムダの排除・IT化・機械化)」それぞれから多角的な視点を持ったアプローチ方法が必要と説いた。

その中でも特に今すぐ実践できる方法として“採用”の初期アプローチである求人票の効果的な書き方を紹介。ワークシートや実際のハローワーク求人票を活用しながら、参加者が具体的にイメージできるように促した。

また、ハローワークの求人票だけでは、新規採用が望めないかと相談を受けた企業の求人票の実例を上げて、求職者が注目する項目をピックアップ。欲しい人材が明確になっているか、自社のPR部分が抽象的な表現になっていないか、専門用語を使っていないか等、書き方を変えただけで求人数が増えた例を多々示し、「自社の魅力は伝えないと伝わらない。求人票は企業の履歴書。相手目線のものになっているかを必ず意識すること」と強調した。

さらに、「採用だけではなく、労働環境の改善や社内のコミュニケーションの活発化も重要。人事担当だけでなく、会社全体で考え取り組むことが大切」と締めくくった。

参加者からは「自社でもすぐに実践できる好例を教えてもらえた」と積極的に感想や質問が飛び交い、盛況のうちに幕を閉じた。



#### 参加者の声

矢島小林工業株式会社  
総務課 課長 富樫 晃さん



各種精密部品加工の他に、新規事業として県産業技術センターや大学と連携したアグリ事業や新規開発事業を行っています。50代の社員が多く、毎年定年退職者が出ますので、先々のことを考えて新規採用を増やしていかなければと危機感を感じていました。自社の魅力としては、創業45年の安定性や新しい分野への挑戦・研究と言った点を打ち出していましたが、求人票で知らず知らずのうちに専門用語を使っていたり、求職者の多くが見るであろう自社ウェブサイトを活用していなかったりと様々な点に気がつきました。今後は、求職者が「私でも働けるかも」と感じられるように仕事内容を表現し、人材確保を進めていきたいと思えます。